

## 宮崎県漁協青壮年部連絡協議会 会長 黒木 航平

新年あけましておめでとうございます。

昨年度総会にて、宮崎県漁協青壮年部会長に就任しました黒木航平と申します。

旧年中は、会員及び関係団体並びに行政の皆様方におかれましては、本協議会の主旨にご賛同のもと、多大なるご協力、ご高配を賜り誠にありがとうございました。

書面をお借りし御礼申し上げます。



さて、我々漁青連は、自主自立の組織として、会員相互の連絡調整を図り、漁協・関係団体と提携して会員の組織活動強化を促進し、県内水産業の発展と漁村文化の向上に寄与することを目的に活動を行っております。

昨年は、魚食普及・担い手対策・都市漁村交流活動の一環として、宮崎県学校給食会主催の「ひむか地産地消交流給食会」に参加し、県内3校の小学校にて食育授業を行いました。授業を通して、小学生に県内で漁獲される魚種や漁法を学んでもらい、参加したメンバーも若いパワーを目の当たりにし大変頼もしく思ったところであります。

また、毎年開催しております九州地区漁青連会長会議が昨年は宮崎県で開催され、各地区より多くの青壮年部員の方々が来県されました。多くの方々との情報交換を通じ、各青壮年部との結束・連携を強めるとともに、今後の活動に向け気持ちを新たにしました次第です。

一方、我が国水産業界を見ても、水産物の消費減退や魚価低迷、資源状況の悪化、漁業就業者の高齢化と人員不足に依然悩まされております。そのような中で、燃油価格及び漁業資材の高騰、高止まりが続いており、漁家経営に深刻な影響を及ぼし、かつてないほど厳しい状況に置かれています。また、ALPS処理水の海洋放出開始から1年が経過する中、中国による日本産水産物の禁輸措置が続いており、日中両間にて措置の緩和・輸出の再開へ向け協議が進むものの、現状再開時期や基準については何れも不透明なままであります。

このような中で、我々漁青連としましても、全国組織である全国漁青連と情報交換を行い、JFグループが一丸となって組織の強化を図るとともに、会員の柔軟な発想と若い力を集結し、漁業・漁村の活性化に努めこの厳しい状況を乗り越えて参ります。

結びになりますが、本年もより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、皆様方のご健康とご多幸、並びに大漁を御祈願し、私の挨拶とさせていただきます。